

〔現状・課題〕

■ 交通局の経営状況

＜コロナ禍前からの経営課題＞

輸送の安全確保のため、車両・設備の更新に多額の費用が必要

全国的な担い手不足に伴う人件費の増加・軽油価格の高騰

＜コロナ禍による影響＞

市バス利用者は大きく減少  
運賃収入も大幅減となり、未曾有の経営危機  
利用者数は回復傾向にあるものの、令和3年度はコロナ禍前の▲25.1%の状況（定期外▲39.0%、定期▲19.2%）  
通学定期券の減少幅が大きい。

■ まちづくり、まちの変化との関わり

生産年齢人口の減少・従業人口の減少  
高齢人口の増加  
学生数は微増（大学生は増加・高校生は微減）  
駅から離れた地域等での人口増加

コロナ禍前は観光客による混雑が発生  
コロナ禍を受け大幅に減少した観光利用は、時期は不透明なもの、今後回復

「歩くまち・京都」総合交通戦略2021、京都観光振興計画2025などの関連計画  
⇒ ・生活交通の維持・確保  
・公共交通の利便性・快適性の向上

■ データから見る市バスのご利用状況

令和3年の旅客流動調査の結果では、コロナ禍で利用者が減少しているにも関わらず、中心部では1便当たりの利用者は多い。  
また、黒字基調であった頃の平成24年調査との比較でも、中心部と周辺部のご利用の割合などに大きな傾向の変化は見られなかった。

周辺部では、中心部や鉄道駅から離れるほど利用者数が減少、運行本数に対して利用が少ないエリアがある等、一部で効率が低い。

周辺部から中心部へ乗換せずアクセスする利用が多いが、外郭道路上等での乗換も一定数ある。

〔検討の視点・方向性(案)〕

- 安定的な事業運営で市バスネットワークを維持
- 将来にわたって市民生活と都市活動を支えていく

① 日々のご利用のお客様の利便性の確保や向上等への対応

- ・「通勤」と「通学」でご利用のお客様は約半数を占めています。ルートや本数（混雑緩和）など、「通勤」と「通学」でのご利用の利便性はしっかりと確保、更なる利便性の向上も目指します。
- ・高齢化が進んでいることもあって、「買い物」などのご利用が増加しているほか、「通院」でのご利用も一定あります。こうした昼間の需要に対応できる路線・ダイヤを目指します。

② 観光でのご利用のお客様への対応と市民の皆様の日々のご利用との調和

（本日のご議論を踏まえ整理します。）

③ 事業運営の一層の効率化

- ・ご利用状況に応じた運行本数となるよう輸送力を再配分（増便／減便）します。
- ・ご利用が少ない地域については、路線を維持しつつ、地域ごとの特性や需要と供給のバランスを踏まえた適正なサービス水準（ルートや運行本数など）についても留意したうえで、効率的なバス運行となるよう見直しを検討します。

④ 新たにご利用の開拓

- ・鉄道駅への接続など、便利なルートを設定することで、新たな需要の創造に取り組みます。
- ・分かりやすい情報発信、情報提供の強化で、日々のご利用はもちろん、あまり市バスをご利用にならない方の利用促進を図ります。
- ・地域の皆様と連携してモビリティ・マネジメントを推進します。また、誰もが快適に暮らすことのできる都市を支える身近な交通機関として、子育て世代をはじめ、幅広い年代の皆様にご利用いただける環境づくりを目指します。

〔具体の施策の項目(案)〕

より多くの皆様に市バスをご利用いただくための取組

京都を観光で訪れる旅行者の皆様により便利で快適に市バスをご利用いただけるための取組

より一層効率的な市バス事業の運営を行っていくための取組

ご利用の少ない路線を維持・確保していくための取組